



愛媛県における空飛ぶクルマに
関するこれまでの取組みについて
2025年10月



そもそも「空飛ぶクルマ」とは？

空飛ぶクルマ＝電動垂直離着陸機（eVTOL）

▶ 電動

- ・ 部品数削減による機体価格・整備費用の低減
- ・ （ヘリコプターと比較した際の）静音性

▶ 垂直離着陸

- ・ 離着陸場所の自由度向上（ビル屋上や被災地など）

▶ 自動※将来的に

- ・ 安全性と省人化の両立

▶ 社会課題解決や地域活性化の手段になり得る

愛媛県の過疎・離島の状況

過疎地域の状況

○法指定の過疎地域を含む市町
20市町中17市町

人口：310,841人（県の23.3%）
面積：3,737.46km²（県の65.8%）

【地域の抱える課題】

- ・人口、特に若年者層の流出
- ・高齢化が著しく進行
- ・地理的条件が不利
- ・社会基盤整備の遅れ
- ・空き家、遊休施設等の増加

※人口、面積は令和2年国勢調査から。

離島の状況

○法指定の離島振興地域
7市町9地域、**有人離島31島**

☞長崎、沖縄に次いで
全国3位

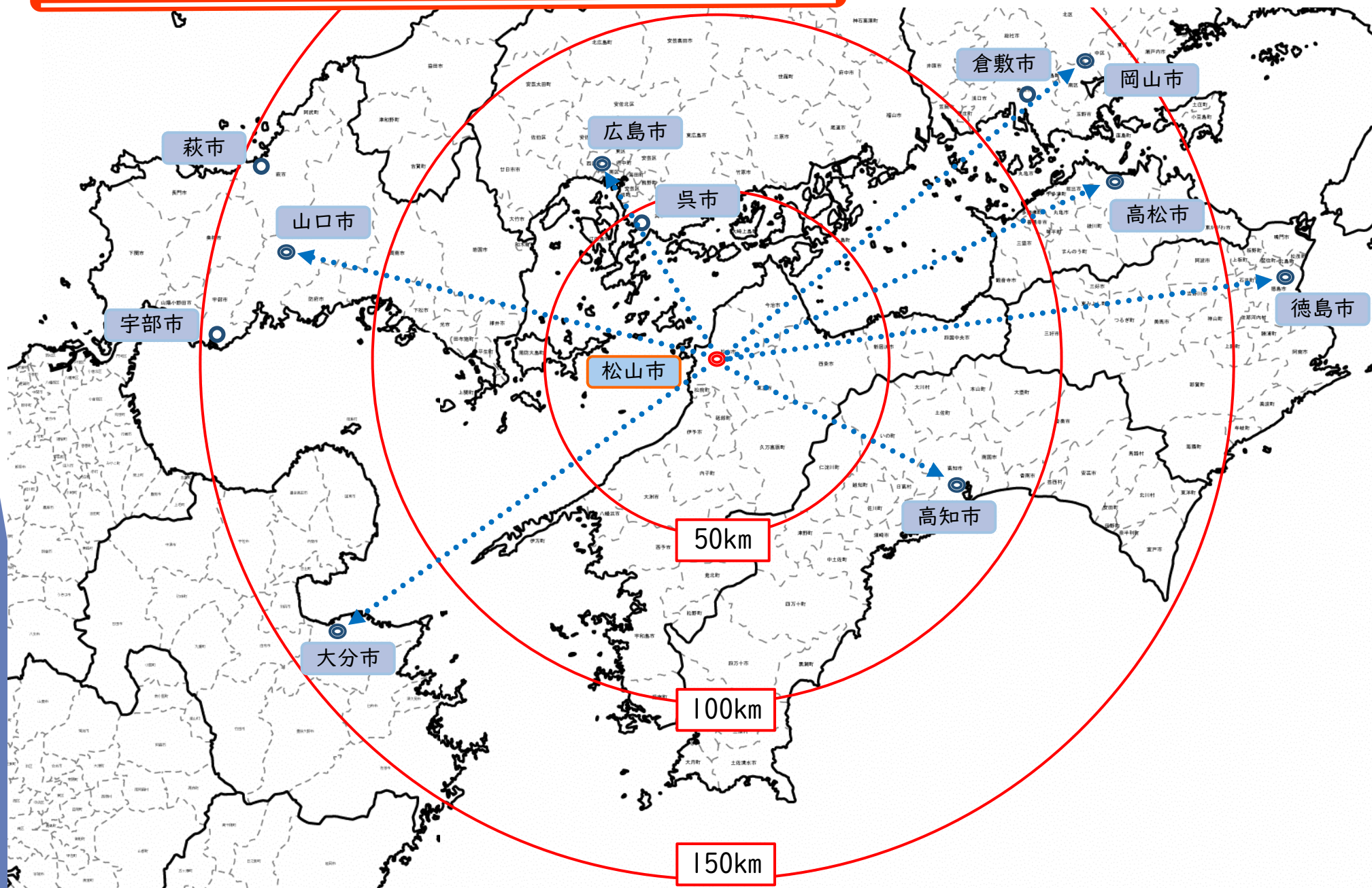
人口：11,671人（県の0.9%）
面積：90.40km²（県の1.6%）

【地域の抱える課題】

- ・過疎化、高齢化が著しく進行
- ・地理的条件が不利
- ・人や物の移動手段の維持
- ・災害時の避難・孤立防止対策

※人口は令和2年国勢調査、
面積は令和6年4月国土交通省資料から。

愛媛県と近隣県との位置関係



愛媛県のこれまでの取組み状況

▶ 令和4年度

- ・「空飛ぶクルマ」関連企業等訪問（5月：東京都）
- ・ シンポジウムの開催（7月）
- ・ 勉強会の開催（12月、3月）
- ・ 実機「HEXA」有人実証飛行（3月）
- ・ 先進県視察（8月：三重県）
- ・ 全国自治体ネットワーキングへの参加（9月：東京都、1月：三重県）



シンポジウムの開催 (令和4年7月)

- ▶ 愛媛県が「空飛ぶクルマ」の社会実装に向けた取組みを開始することを発表
- ▶ 四国経済産業局
慶應義塾大学大学院SDM研究科
デロイトトーマツコンサルティング
日本航空
SkyDrive
セイノーHD を講師にお招きした講演
- ▶ 愛媛県版ロードマップを公表
- ▶ 推進ネットワークを立ち上げ、幅広く参加を呼びかけ

Advanced Air Mobility SYMPOSIUM

愛媛県における 空の移動革命 シンポジウム



「空飛ぶクルマ」の実用化は、決して遠い未来のことではありません。多くの社会課題を抱える地方において、過疎・難易交通、緊急医療、災害救助、観光、物流などに大きな役割を果たすとともに、新たなビジネスを創出することが期待されています。愛媛県における「空の移動革命」実現に向けた第一歩を踏み出すため、県民の皆様の理解促進と機運醸成を目的として、シンポジウムを開催します。

日時 令和4年 7月20日 水 13:00～15:40 (12:30開場)

会場 愛媛県県民文化会館 メインホール 愛媛県松山市道後町2丁目5-1

定員 会場 500名 オンライン 定員なし

参加方法 愛媛新聞社ホームページ内、専用フォームよりお申し込みください。二次元コードからアクセスできます。

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、完全オンライン視聴方式となる場合がありますので、ご来館前には、HPをご確認ください。



お問い合わせ 愛媛新聞社営業局「愛媛県における空の移動革命シンポジウム」係

TEL 089-935-2322 (平日9:00～17:00) FAX 089-941-8111

メール kikaku-soramobi@ehime-np.co.jp

主催 愛媛県 共催 DBJ 日本政策投資銀行 後援 四国経済産業局 四国経済産業局

愛媛県のこれまでの取り組み状況

▶ 令和5年度

- ・ 運航ルート等調査事業の実施（6月～6年2月）
- ・ ワークショップの開催（6月）
- ・ 全国自治体ネットワーキングへの参加（9月：長崎県、2月：山梨県）
- ・ AAM 広域実装 行政ネットワーク（瀬戸内エリア）第1回への参加（11月）
- ・ 勉強会の開催（10月、2月）

▶ 令和6年度

- ・ 【今治市共同】離発着場候補地環境等調査事業（9月～7年2月）
- ・ 香川県の空飛ぶクルマ実証飛行の視察（9月）
- ・ 空飛ぶクルマ自治体ネットワーキングへの参加（北海道：9月）
- ・ 勉強会の開催（2月）

愛媛県のこれまでの取り組み状況

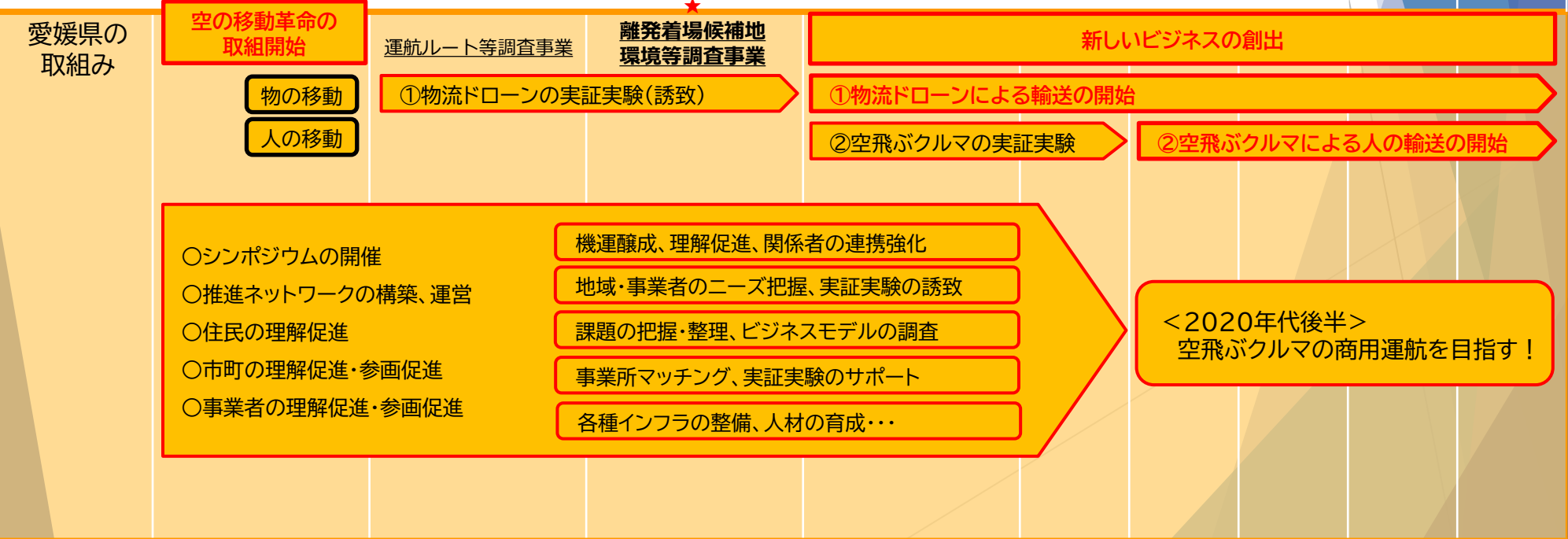
▶ 令和7年度

- ・ 【大洲市共同】実証飛行を含む機運醸成事業の実施（7月～7年2月）
- ・ 新モビリティサービス（空飛ぶクルマ含む）を対象とした補助金の創設
- ・ 全国自治体ネットワーキングへの参加（9月：愛知県）
- ・ 県内市町向け勉強会の開催（10月）
- ・ 勉強会の開催（2～3月予定）



愛媛県の「空飛ぶクルマ」の取組み計画

	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)~
海外の動き		海外企業が機体認証取得			各国で実装が進展				
			欧米大都市で旅客輸送サービス開始						
日本の動き	試験飛行・実証実験等			大阪・関西万博で商業サービス開始		都市・地方における商用運航・サービスエリア拡大			
	法制度整備、離着陸場整備、技術開発、社会受容性向上等								



県内の推進ネットワークの構築

空飛ぶクルマを広く普及させるには、地域社会の理解を得ることはもとより、
運航事業をはじめとする様々な事業の提供が必要であることから、
幅広い関係者の参画を得て、社会実装を推進するネットワークの構築を図ります。



運航ルート等調査事業の実施 (令和5年6月～令和6年2月)

▶ 愛媛県における運航ルート案を調査

①県内外を結ぶルート

②県内を結ぶルート

③離島・半島・中山間地域など交通不便地帯での活用ルート
の3種類を調査し、県内全域を結ぶ空の交通ネットワーク
をイメージしてもらう

▶ 株式会社長大様に委託

▶ 第5回勉強会において調査結果を発表

運航ルート等調査事業の実施 (令和5年6月～令和6年2月)



離発着場候補地等環境調査事業の実施 (令和6年9月～令和7年2月)

- ▶ **今治市と共同で実施。** 令和5年度の調査結果から、有力な候補地の一つと考えられる今治市の島しょ部における離発着場の整備等に関して、社会実装に必要な事項を調査。
- ▶ (1) 離発着場の整備等に必要な事項の調査
- ▶ (2) 具体的な飛行経路の設定等に必要な事項の調査
- ▶ (3) 運航事業者等へのヒアリング
- ▶ (4) 事業化に向けた課題等の整理
- ▶ 第6回勉強会において調査結果を発表

離発着場候補地等環境調査事業の実施 (令和6年9月～令和7年2月)

～愛媛県・今治市における「空飛ぶクルマ」の実装ストーリー～

次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト（ReAMoプロジェクト）の全体アーキテクチャーならびに、今治市が有する観光資源と今治市の地理的要件を考慮し、遊覧飛行事業を足掛かりとして、ゆくゆくは大規模経済圏の往来の中継機能を担うことが期待できます。

フェーズ1：

遊覧（A to A）

飛行距離：～10km

出展：経済産業省ウェブサイト



＜事業コンセプト＞

アセットを極力持たないスモールスタートで事業を行い、しまなみの多島美や穏やかな気候を強みとした遊覧需要の掘り起こしと、さらなる事業拡大を目指したビジネスモデルの検証を行います。

＜想定運用＞

場外離着陸場を整備し、多くの需要が見込まれる時期に限定して事業を行います。



(↑)フェーズ1：場外離着陸場のパース

ワクワクするね！



フェーズ2：

遊覧（A to B）、空港等との接続

飛行距離：～30km



＜事業コンセプト＞

フェーズ1で掘り起こした空飛ぶクルマを活用した遊覧需要を強化しつつ、二地点間移動の需要を掘り起こすため、空港等との既存交通結節点の連携拠点を設けます。

＜想定運用＞

パーティポートを建設し、通年運航可能な環境を整備し、需要開拓を行います。



(↑)フェーズ2：パーティポートのパース

便利なんやね～



フェーズ3：

大規模経済圏の往来の中継機能

飛行距離：～100km



＜事業コンセプト＞

二地点間移動の需要を強化しつつ、瀬戸内海の真ん中に位置するという地理的強みを背景に、関西圏と九州圏を結ぶ路線の充電・休息需要を取り込み、価値があり、なおかつユニークなポジションを築きます。

＜想定運用＞

パーティハブを建設し、中継機の受入能力を強化しつつ、機体の整備事業といった新たな収益の柱を展開することで、パーティハブを起点とした新たなまちづくりに繋がります。



(↑)フェーズ3：多頻度運航を支えるパーティハブのパース

まとめ

- ▶ 万博を契機として全国各地で空飛ぶクルマの社会実装に向けた検討が加速していくことを踏まえ、最新の国の動向や事業者の取組み、県や市町の活動状況等を、推進ネットワークの勉強会の開催を通じて周知・啓発することで、空飛ぶクルマへの理解促進と参入意欲の醸成を図る
- ▶ 県内外の自治体、関係機関との連携強化
 - ⇒現に取組みを行っている地域のみならず、県内の他地域も含めて「空飛ぶクルマ」の取組みを広げる
 - ⇒近隣県や関係機関との連携を強化し、広範囲での社会実装の促進を図る